

Department	International College of Liberal Arts		
Semester	Fall 2025	Year Offered (Odd/Even/Every Year)	Every Year
Course Number	JPNL250		
Course Title	Professional Writing in Japanese		
Prerequisites	Japanese Native OR JPNL300 Advanced Japanese OR JPNL117 Japanese Language 7		
Course Instructor	TOMA Masahiro	Year Available (Grade Level)	1
Subject Area	Japan Studies: Japanese Language	Number of Credits	3
Class Style	Seminar	Language of instruction	Japanese

(NOTE 1) Depending on the class size and the capacity of the facility, we may not be able to accommodate all students who wish to register for the course

Course Description	日本人学生と一部の上級以上の日本語学習者を対象にしたコース。アカデミックライティングをはじめ、様々な場面で社会人として通用する文章技法を学ぶ。定型表現を適切に使用する練習や、各種文書のテンプレートを利用し、適切な情報を記入する練習も含む。このコースでは、文法的に正確な文章の作成はもとより、ビジネス環境における依頼・断り・謝罪など、受講者が将来遭遇する可能性が高い場面で、社会的文化的に適切な文書作成ができるようになることを目指す。また、各種文書の作成後、学生3～5人で構成する小グループ内での相互評価を行い、その結果を発表する。この手法により、学生がさまざまな文章・文体を分析する機会を得るとともに、そこでの気づき・学びを自らの文章作成に反映させることができる。
Class plan based on course evaluation from previous academic year	毎学期のこのコースは、学生のコース評価とフィードバックを反映させたものとして評価される。先学期の学生のフィードバックによると、特に適切な待遇表現（敬語表現）を用いたメール文の作成、また批判的思考を駆使したディベートや哲学対話の対話活動が興味深かったためになったという声が多かったため、今学期もメール文作成と対話活動（ディスカッション）に多く時間を割いて、授業を進めていきたい。
Course related to the instructor's practical experience (Summary of experience)	N/A
Learning Goals	本科目の主な目標は、大学生として、また、社会人としてさまざまな環境で効果的にコミュニケーションを取る上で必要な文章技法を学生に身につけさせることである。 全ての課題の要件を満たし、本科目を終了した学生は、次のことができるようになる。 ・大学生・社会人として求められるレベルの論理的で明瞭な文章を作成することができる。 ・立場や親疎、内容を反映させた社会的文化的に適切な文書（電子メール、報告書、履歴書、及び履歴書等に添える自己PR文等）を作成することができる。 ・批判的思考を駆使して、説得的に自分の考えを適切に表明できる口頭能力を身につける。

iCLA Diploma Policy	DP1/DP2/DP3/DP4
---------------------	-----------------

iCLA Diploma Policy

(DP1) To Value Knowledge – Having high oral and written communication skills to be able to both comprehend and transfer knowledge

(DP2) To Be Able to Adapt to a Changing World – Having critical, creative, problem-solving, intercultural skills, global and independent mindset to adopt to a changing world

(DP3) To Believe in Collaboration – Having a disposition to work effectively and inclusively in teams

(DP4) To Act from a Sense of Personal and Social Responsibility – Having good ethical and moral values to make positive impacts in the world

Active Learning Methods	Problem-Based Learning/Discussion, Debate/Group Work			
More details/supplemental information on Active Learning Methods	毎週の作文課題と連動する形で、各授業では活発な議論を行う。本授業では、以下の議論や対話への積極的な参加を求められる。 ・「社会人」としての適切な日本語の待遇表現（敬語表現含む）とは何かについて、議論をしながら理解を深める。 ・新聞記事等を素材にしたテーマについて、作文を書くことを前提に、議論を行う。 ・賛成/反対の立場に配慮した意見文を書く活動と連動して、ディベートを行う。			
Use of ICT	Google Forms MS From			
Contents of class preparation and review	【事前学習】 ・次回の授業で扱う内容について、教員が指示したプリントなどの演習を行って準備する。 ・ディベートや哲学対話の授業の前は、そのトピックについて調べ、議論や対話に向けて、発言の準備をする。 【事後学習】 ・授業時に出た課題作文を期日までに提出する。 ・時に、提出した課題作文について、教員やクラスメートからのピアフィードバックに従って書き直しをする。	Hours expected to be spent preparing for class (hours per week)	2 hours	Hours expected to be spent on class review (hours per week) 3 hours
Feedback Methods	学生は課題作文を教師にEメールで提出する。教師は、課題作文を添削し、フィードバックをメールで送信する。時に、クラス内で自分たちの書いた作文を読み合い、ピアフィードバックを行う（ピアフィードバックについては、個人情報に配慮して希望する学生のみ、あるいは匿名で行うなど配慮する）。			

Grading Criteria		
Grading Methods	Grading Weights	Grading Content
議論への活発な参加	40%	ピアフィードバック活動や対話、ディスカッション活動への積極的な参加、また出席率
作文課題	50%	毎週の作文課題の提出率および評点
期末課題	10%	期末課題は総括的な作文課題である

Required Textbook(s)	各授業ではプリントを配布する。 参考図書はクラスで適宜紹介する。
Other Reading Materials/URL	後日授業で告知する

Plagiarism Policy	iCLAでは、剽窃は評価に値しない不正行為として位置付けている。すべての提出物は学生が自分で作成したものでなければならぬ。また、提出物のみでなく、他の学生や他人の考えを参照なしに利用することは剽窃行為とみなされる。Chat GPTなどの生成AIの使用は本授業では認めない。提出した課題が剽窃、または生成AIによるものとみなされた場合は、当該課題の点数は0点とする。何が剽窃にあたるかは学生便覧を参照し、不明な場合は提出前に必ず教員に問い合わせること。
Other Additional Notes (Outline crucial policies and info not mentioned above)	このクラスでは、すべての授業活動に積極的に参加することが求められる。したがって、遅刻、途中退席、5分以上の早退は「遅刻」「早退」とみなされる。遅刻」または「早退」を3回した場合は、「欠席」1回と数える。遅刻、途中退席、早退を含め、30分を超える欠席も「欠席」1回と数える。全授業時間の1/3以上欠席した場合、最終課題（他のコースの最終試験に相当）を提出することができず、そのコースの単位を取得することができないので注意すること。

(NOTE 2) Class schedule is subject to change

Class Schedule	
Class Number	Content
Class 1	オリエンテーション・日本語文章スタイルについて
Class 2	文章タイプ別の使用語彙について
Class 3	待遇表現について 1
Class 4	待遇表現について 2
Class 5	待遇表現と電子メール作成（第 1 稿作成＋グループメンバーに送付）
Class 6	小グループディスカッション及び分析結果発表
Class 7	待遇表現と電子メール作成 1
Class 8	待遇表現と電子メール作成 2
Class 9	待遇表現と電子メール作成 3
Class 10	対話活動①—議論の種類を考える。「読むこと」と「書くこと」の連関

Class 11	対話活動②ーディベート
Class 12	対話活動③
Class 13	事実と意見の相違ー引用の仕方
Class 14	曖昧な文、語順
Class 15	長い文を分ける
Class 16	文のねじれー主語述語の対応を考える
Class 17	接続表現（接続詞の適切な用法）
Class 18	アカデミックライティング（日本語）とはどんな文章か
Class 19	日本語アカデミックライティングの基本作法①
Class 20	日本語アカデミックライティングの基本作法②
Class 21	アカデミックライティング（反対の意見を述べる） ーディベート②
Class 22	アカデミックライティング（反対の意見を述べる） ーディベート③
Class 23	アカデミックライティング
Class 24	アカデミックライティング

Class 25	アカデミックライティング まとめ①
Class 26	アカデミックライティング まとめ②
Class 27	自己PR①
Class 28	自己PR②
Class 29	模擬面接①
Class 30	模擬面接②